

1 現代文

問一 ア 歓待 イ 循環 ウ 名誉 エ 争奪 オ 奉仕

問二 「モノを買うこと」は、代金を払って商品を受け取る双方向的な行為であるのに対して、「人にプレゼントを渡すこと」は、贈り物を渡すだけで代わりに何かを受け取ることはない一方向的な行為であるから。

問三 クラの制度では、贈られた首飾りや腕輪が、保有され続けることなく他に渡され、それを手にした人物の伝説が語り継がれるのと同様に、サッカーW杯では、優勝して手にしたトロフィーが、四年後には手放され、それを手にした歴代の名選手や数々の歴史に残る試合の記憶がそこに刻まれる。

問四 人格化された社会の長期的秩序の再生産（一八字）

問五 商品交換で購入したいいつでも交換できる商品が交換不可能なかけがえのないモノとして贈与される場合や、短期的で非人格的な取引である商品交換の場において、買い手に行きつけの店ができたり、売り手にお得意様ができたりすることで、両者の間に贈与交換のような親密で長期的な人格的関係が形成される場合があるから。（一四七字）

問六 お年玉とは、正月に子どもに贈られるお金のことである。お年玉は誰にでも渡されるわけではなく、親類など縁の深い関係にある子どもたちに贈られるのが普通である。したがって、これは、ただ単にお金が大人から子どもへと移動しているのではなくて、親類同士の絆を確認し、その絆を強化する役割をも担っていると考えられる。（二五〇字）

人間は、信頼性の高い証拠に基づかず信じたものを信じて世界を見てしまい、誤った判断をするという「認知バイアス」に陥ってしまう傾向がある。また多くの人間は、短く切り詰めた間に合わせの推論によって質問におおざっぱな答を出す便法を用いるが、その結果、往々にして誤った答を導いてしまう。たとえば、京都議定書は、全世界で同時に組み込まなければ効果の乏しい温暖化防止対策において、まず先進国が化石燃料の消費量を削減すれば温暖化が防止できると信じて締結された条約だが、そのようにして消費量を削減すると、化石燃料が値下がりし、かえって他国の化石燃料の消費量を増やす誘因となってしまう。また、ヨーロッパが国際競争に直面している業種の企業に温室効果ガス排出権の購入を義務づけると、企業は排出量の取り締まりの緩い国に拠点を移してしまう。これらは、京都議定書の政策が失敗に終わった事例である。このように、経済において、問題の全体像を俯瞰的に捉え政策の副作用も考慮しなければ、善意の政策が逆効果を招くという悲惨な状況に陥ることになる、という意味である。（四六六字）